★　９月２６日（水）

ようやく部屋が平日の２４時間使える日が来ました。センターキールやハルの接合を早くしないことには作業が進まないので，今日は，がんばりました。仕事が終わり，午後６時半から深夜１２時までの作業になりました。しかも，２日後に判明するのですが，致命的なミスがいくつか・・・。

接合前に，基準になる接合線を反対側に移していきます。厚紙（はがきなど）を折って使うと良いとのことでしたが，あまり上手にできなかったので，直角定規を使いました。量が多いので，これには結構時間がかかります。１時間くらいでしょうか。

キールです。先日，接合が終わっている前半部分と後半部分を張り合わせます。

“水糸を張って基準線に合わせる・・・”

んん？基準線ってどれだ？？

基準線がわかりません。部品図を引いたときの基準線はあるのですが，それに合わせると少し違っています。きちんと引いたつもりなのですが，引き忘れなのでしょうか。

気をとりなおし，ハルのほうを確認します。今回の接合では，Ｂ，Ｃ，Ｄの部品番号の物です。

“水糸を張って基準線に合わせる・・・”

んん？基準線ってどれだ？？

これもどうもよくわかりません。うーん，困った。

いろいろやってみたり，図面を見たりと，悩むこと約１時間，方針をきめました。

１　キールは自分を信じてダボ穴を基準にして止める。

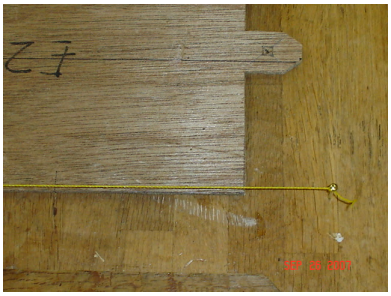
２　ハルは水糸を引き，基準線が足りないと思われるところは，部品線をけがいたときの基準線を元に書き足しておこなう。

で，キールです。

まず，３㎜ほどのドリルでダボ穴の中心をあけます。これにちょうど３㎜くらいの焼き鳥用の“竹串”挿して全体を仮止めし，ラインの確認をします。何とかいけそうです。

次に６㎜のダボを使うので，先にあけた３㎜の穴を下穴として，５，８㎜～５．９㎜の穴を丁寧にあけていきます。ダボは板厚に合わせた長さの物を用意しました。これが第１の失敗始まりなのですが，いい加減にやってしまい（疲れていました・・・。）少し短かったようです。長めのものを用意し、叩き込んだ後切断する、という加工法をとるべきでした。理由は後日の失敗のところで。

ここまでで，キールの接着の準備は完了です。



次は，ハルです。

全長は約３．５ｍあります。木工用の机を横に３台並べ，中央の机に接合部分が来るようにハルを置きました。水糸は机に“直に釘で打ち付け”（内緒です）基準線としました。

この状態でハルの位置をしっかりと決め，（本当いけないのですが）“机に直に”６㎜のホチキスで仮止めしました。

これで，基準線はもう必要なくなります。ウフフ。

接合用の部品を配置し，同じサイズの物は，この上に重ねて接合するので，重なる部分にマスク用の薄い養生シートを用意して，接合の準備が完了です。

この時点で，時計はすでに１１時を回ってしまい，意識がもうろうとしてきました。これが失敗の第２の原因かもしれません。

接着用のエポキシ樹脂を用意します。余ってはいけないので，まず１００ｇです。これまでのように，接合の両面にしっかりと塗布します。最初の接合板を下におき，その上に前，後ろのキールを置いて，竹岸でグリグリやって位置を安定させます。実は，後日の失敗の最大の原因がこれだったのだと思います。全体の状態を確認し，ダボを打ち込んでいきます。このとき，すでに下側にも重ねた接合板があり，ダボの長さをしっかりと測らないといけなかったのです。打ち込み中に一部入りにくい部分が有りましたが，かまわずたたき込んでしまいました。（実は，入っていないどころか，穴のない部分のベニヤにくい込んでいたのです。）

あとは展圧をかけ，２４時間放っておきました。このとき，ひっくり返してダボの状態を確認しなかったのが，命取りになりました。

タガーボードの接合もやってしまいました。３枚重ねなのですが，１枚目の途中でエポキシが無くなり，追加で１００ｇを作ったのですが，硬化剤の計量中に電子秤がシャットオフするというアクシデントで，カンで調合しましたが，大丈夫かなぁ？

最後にハルです。もう１００ｇエポキシ樹脂を作り

ました。まず，下になっているハル本体の接合面にエポキシを塗り伸ばし，接合板にもしっかりと塗ってから位置を決め，ホチキスで４カ所程度仮止めをします。この上に，小さく切断した養生シートを置き，両サイドには厚さが８㎜になるようにサポート用の板などを置きます。次に重ねる板が斜めにしならないようにするためです。

次は接合板を下にして，その上にハル本体を重ねます。もちろん両面にエポキシを塗ります。ハル本体側から仮止めのホチキスを打ち，シートをかぶせてから工作イスを乗せ，さらに金敷を乗せました。これでハルの接合も終わりで，あとは２４時間待つだけです。

もう時計は１２時を指しています。くたくたの状態で，帰宅しました。

★　９月２８日（金）

朝のことです。わくわくしながら接着の状態を確認すると・・・。？？？

タガーボードは１枚がしっかりついておらず，少し浮いたようになっています。ベニヤ板をかけ，展圧したつもりだったのですが，かえって板に曲げるような力が掛かってしまったようです。まあ，これはあとでエポキシを流し込んで，もう一度加圧すれば何とかなるでしょう。

ハルのほうは，まあまあです。養生シートがくっついてしまって取れにくくなってしまっていますが，接合そのものはうまくいっています。良かった！！

キールは・・・。あ，あ，あ。下になった部分の接合板が曲がって（斜めに）ついています。よく見ると，ダボが入っていません。それどころか，隙間が少しあります。少し迷いましたが，やり直すしかないので，隙間にバールをこじ入れ，ハンマーでたたき込んで割開きました。

開いてみたところ，なんと，ダボがしっかりと穴に合っていませんでした。それどころか，ダボ穴でない部分に食い込んでしまっています。

教訓：片側ずつしっかりと点検しないやつは馬鹿だ。

夕方，仕事が終わってから修正を始めました。タガーボードのホルダーになる部分に塗っておいたエポキシ樹脂がしっかり硬化していません。できるだけこそぎ落とし，アセトンで拭きました。（これがいけなかったのか，再塗装では硬化しなかった）はぎ取った接合面の両面もカンナで修正し，平面を作り直しました。

よく見るとセンターキールのラインが少し曲がっているような気がします。そんなに大きくはないのですが，心配です。

がっかりですが，仕方ありません。片面の接合は後日やり直すことにし，今日はここまでです。約１時間でした。

次は，タガーボードポックスをエポキシで再塗装する事にします。タガーボードの再接着と一緒にできそうです。その後キールの接合板を再度接着します。硬化には２４時間必要なので，１週間はかかりそうです。本体の組立がまた遅れます・・・。

★　１０月１日（月）

タガーボードポックスをエポキシで再塗装しました。マスキングテープを貼って，すでに接合したキール側と，修正のために剥がしたもうの接合板を，それぞれ塗装しました。

次にタガーボードの再接です。エポキシ樹脂を流し込んでみたのですが，時間をかけるといくらでも吸い込みます。３回ほどしみこませた後，２０Ｋｇのハチの巣で加圧しました。何とかなるかな。

エポキシ樹脂は５０ｇの予定だったのですが，先に入れた硬化剤が多く入ってしまい，分量が１５０ｇと多めになってしまいました。もったいないので，ハルＢの接合位置決め用の小木片をつけることにしました。

接合面の両方にエポキシを塗ったあと，接合し，ホチキスで仮止めです。今回はそんなに密着度を必要としないので，加圧はしませんでした。

作業時間は１時間ほどでした。

★　１０月２日（火）

昨日の作業の結果です。ハルのほうはうまくいきました。タガーボックスの塗装したエポキシが，何故か固まっていません。タガーボードは固まったようですが，まだ少し粘つくので，明日までこのままにしておきます。ボックスも固まると良いのですが・・・。

明日もだめなら，電気ストーブで加熱かな。